

## 「森の散策としめ縄正月飾りづくり」

新型コロナウイルス蔓延の渦中ですが、新たに迎える年が穏やかであることの  
願いを込めて、しめ縄で正月のお飾りを作りました。

- 1 実施日時 令和2年12月13日(日) 10:00~14:50
- 2 担当森林インストラクター 中川 大石
- 3 当日参加森林インストラクター 青野、小久保、越智、杉山、早川
- 4 参加者 3家族 子供2人 大人2人  
単独 大人12人 合計16人
- 5 行動内容
  - ① 受付開始・グループ分け 9時45分
  - ② 主催者挨拶 10時
  - ③ 軽い体操後に散策に出発 10時30分
  - ④ 「森の恵み」の家帰着 12時
  - ⑤ 到着グループごとに昼食開始
  - ⑥ しめ縄づくり開始 12時45分
  - ⑦ しめ縄づくりを終了し参加者解散 14時30分
  - ⑧ 片付けの後森林インストラクター解散 14時50分

### 6 実施内容

#### 6-1. 午前 --- 森林散策

10時30分より参加者を、キャンセル分を除き4班に分け、それぞれに1名の森林インストラクターが案内人として同行し、軽い準備体操の後、森林散策に出発した。以下、班ごとに担当ガイドからその様子を報告する。

#### 大石班

小2の男の子、幼稚園年長の女の子とご夫婦の4人家族だった。皆、大変元気よく登りの急な斜面をものともせず登ってゆき、頂上へは一番早く到達した。

コロナウイルスで騒がれている中、スギ・ヒノキの林の中を歩きながら、樹木から森林浴成分であるフィトンチッドが発散されてリラックスにさせてくれる他、周りへの消毒・抗菌作用が働き、大変良い事ですよと話した。参加者の皆さんは、坂道の途中で見つけた冬イチゴの赤い実、ツルリンドウの赤い実、林道で見つけた桐の大きな落ち葉、ドライフラワー化したアジサイの花等に興味を示し、写真を撮っていた。

頂上では、晴天のもと素晴らしい眺めで、伊豆半島、駿河湾、そして富士山をきれいに望むことが出来、しばし寛ぎの時間を過ごしていただいた。

帰りがけ「ヤマコウバシ」の前に来た時に、周りは葉が落ちていの中で落下せずしつこく葉が残っていることを引き合いに、「なかなか落ちないので受験のお守りとして重宝がられている」と話すと、皆さん笑って聞いてくれた。林の中では、黄色に色づいた「コアジサイ」と「クロモジ」の群落が見事だった。また「ミヤマキシミ」の実の赤色が、青い葉の中でひと際目立っていたが、「残念ながら毒だから触らないように」と注意しておいた。



## 杉山班

大人女性4人の班で、中央の直登するコースの東側の登山道を頂上まで登った（八十岡コース）。午前中は雲がほとんどなく、駿河湾の先に伊豆半島が広がっているのがよく見えた。また、安倍川に架かる第2東名や静岡市の中心街から久能山の方向までよく見渡せた。ただ、富士山もよく見えたものの頂上付近にもほとんど雪がなく少し物足りない富士山の雄姿であった。

散策の途中、例えば次のような解説をしながら歩いた。

**高山の三角点：** 二等三角点ながら、高山（717m）には三角点が設置されている。簡単に無くならないように、本体は1メートルもの深さにまで埋められている。

**カエデ類：** カエデの語源はカエルの手の形に似ていることから。いちばん馴染みのあるのがイロハカエデで、切れ目が「いろはにほへと」数えたことから。紅葉がきれいであることも人気の一つ。オオモミジやヒトツバカエデの説明も加えた。

**シナマンサク：** 名前の由来は、早春に「先ず花を咲かせる」ことから。寒い冬にこの様に芽をつけ春の準備をしているが、芽には2種類あって円いのが花の芽、尖っている方が葉になる芽である。

**コムラサキ：** ムラサキシキブ似ているが、花のつき方が違うし、実はコムラサキの方が多い。

**ガマズミ：** この赤い実は生で食べてもあまりおいしくないが、果実酒にすると美しくおいしいことを説明。鳥は脂肪分のある実から好んで食べるので、ガマズミはあまり好かれていないようだ。

**クサギ：** 参加者がクサギの実を見つけて興味をもった。そこで、実や葉を手にとって嗅いでもらうと、「年寄りの匂いがする」「変なおいがする」とか「ピーナツの匂いがする」など様々な感想があった。そこで、「花の季節にはユリの香りがする」と説明を加えた。また、濃紺の果実と赤の萼とのコントラストが目立ち、鳥を誘うこと。クサギの実は染め物としても利用されていると説明した。

**アブラチャン：** 株立ちのアブラチャンの木も参加者たちに匂いを嗅いでもらった。「いい匂いと」という感想だった。「クスノキ科の木」であること、シナマンサクと同じように、花と葉の芽に違いがあること、またよく燃える木であることなどを話した。

**ピクライト玄武岩：** 普通の玄武岩と違い、噴火によって生成されたものではなくマグマが直接貫入したものである、と解説。これを聞いて、参加者たちが珍しい表面の状態をした岩石を食い入るように見たり、手に取ってみたりしていた。

**アオキ：** 青々した葉に、赤い実をつけているアオキをいち早く見つけた。

**アオハダ：** 黄葉の枝振りが独特で美しい。参加者は感心していた。

**マンリョウ：** 葉縁には共生菌の1種、葉粒菌が詰まった部屋が形成されていて、空中窒素を養分として取り込んでいる。

**キッコウハグマ：** 参加者が目ざとく見つけた。秋の花というイメージであるが、木漏れ日の参道脇に1輪ながら咲いていた。

**クロモジ：** 参加者に匂いを嗅いでもらうと、おしなべていい匂いだとの返答であった。「高級料亭などで出される和菓子についてくる爪楊枝に利用される」との説明に、「そう、そう」と相槌を打っていた。多くの薬や精油にも利用されていると説明を加えた。

**シロヨメナ：** ヨメナの多くは薄紫色であるが、これはヨメナに似た白い花である。

**クリ：** クリの冬芽を見せて、栗の実に似ていると説明。

**サンショウ：** 匂いを嗅いでもらった。食事の時使うサンショウの匂いがするとの感想だった。

**フユイチゴ：** 冬に実るイチゴで甘くおいしいためジャムにしたりすることを説明。早速小さな果実をほうばる参加者がいて「おいしい！」の一言。

## 青野班

ご夫婦と友達、80歳代の男性の4人を案内した。駐車場で、ガマズミと冬イチゴを味わってもらい、初夏にはコアジサイがきれいなこととお話した。遊びの森への道でミヤマシキミの赤い実が毒であること、ショウジョウバカマとエビネの花がみられることもお話した。高山の池では春に水芭蕉が咲くこと、夏にはモリアオガエルの産卵がおこなわれることを話した。

展望台へ向かう道では、ミツマタ、ツルグミ、クロモジを見てもらい、スギとヒノキの違いも話した。頂上近くでは、大きくなったタラノキを見、カモシカも一頭見ることができた。

頂上広場では富士山の展望が素晴らしく、参加者のうち3人は一本桜まで行ってきた。二等三角点を見、ホオノキも見てもらって、山道を下りた。サンショウとイヌザンショウ、カラスザンショウの違いについてもお話した。

午後のしめ縄づくりも、それぞれまずまず満足のできる出来栄えだったようだ。



自然観察風景

## 小久保班

大人の方々ばかり、ご夫婦1組と友人同士1組、計4人のグループをガイドした。他のグループ同様に頂上まで往復したが、お1人を除き高山は初めてという方々だった。またこうした自然観察のガイドを受けるのも初めてということだった。植物についてもあまりご存じない様子だったが、道々樹木や草花の説明をしながら歩くと皆さん大変興味深そうに聞いてくれた。「こういう説明を聞くのは初めてなので、とても勉強になるし面白い」と言っていたりするなど、ガイドとしても嬉しい時間になった。また手持ちの樹木解説冊子をお見せしながら説明すると、「後で勉強したいので、その本が手に入らないか?」と仰有る。こんなこともあるのか、と持ち歩いていた3冊をその場でお譲りするなどした。

詳しく見ていただいたものとしては、ガマズミ、ミツマタ、クサギ、クロモジ、ミヤマシキミなど定番の樹木、それに草本ではツルリンドウやキッコウハグマの実などだ。またガマズミやフユイチゴについては、味覚体験もしていただいた。特にフユイチゴについては、そのルビーのように輝く真紅の実と、小さいながら甘酸っぱい味が印象に残ったようだった。

そうこうするうちに山頂に到着、皆さん富士山や駿河湾の眺めを堪能したようだ。「今回参加して、本当に良かった」、「是非また参加したい」とも仰有っていただいた。今回は家族連れではなく大人ばかりの参加者だったが、たまたま市の広報で目にとまり申し込んだのだとの由。「今年はコロナ禍で特別だが、例年は年に6回ずつやっています」と話すと、これまで全く気づかなかったということだった。子連れの家族以外にも募集範囲を広げたことで、こういう参加者を拾えるようになったのだろう。せっかくの森林教室なので、こういう方々にもっと広く訴えてゆけるようにしたいものだと感じた。



山頂からの眺め



## 6-2. 午後 --- しめ縄の正月飾りづくり

コロナ禍ということがあってか、静岡市の広報紙にはこの森林教室の案内が森の散策だけしか載っていなかった。そのためか、参加者の全員が午後の正月飾りづくりのことを知らされていなかった。最初集まった時、午前の森の散策だけでなく午後は正月飾りづくりがあることを説明したが、皆さん当然驚いていた。それにもかかわらず、午前中で帰るグループはなく参加者全員が最後まで残った。しかも熱心にかつ楽しそうに取り組んでいた。皆さん満足そうに「正月飾り」を土産に持ち帰った。

正月に向かい、目出度い新年度を迎えるため稲わらを編んでしめ縄を作り、これにダイダイ、ユズリハ、ウラジロを添付し、更に、縁起ものである、松葉やナンテンの実そして折り紙で鶴や亀、御幣を作り稲わらのしめ縄に差し込んで、正月飾りを完成した。参加者皆さん楽しそうに、真剣に工作に熱中して、立派な作品が完成した。

作業の途中で、ダイダイ、ユズリハ、ウラジロを使う理由と縁起物の由来などを紹介した。

今回もそうであったが、毎回当日のキャンセルがあり、材料準備や指導員の手配に苦慮している。幼児のいる家族づれの場合は、やはり当日キャンセルが多いようだ。そのようなことから、大人の参加枠を拡大したらどうかと、市に提言したい。

